

2019年5月31日

所属競技団体主将・代議員・審判員各位

一般社団法人日本ラクロス協会 事務局

## 夏季における試合催行に向けた協会の方針（2019年以降版）

昨夏は日本全国で記録的な猛暑となり、当協会理事会発信で7月末に急遽、「夏季における試合催行に向けた協会方針（2018年暫定版）」を策定し、関係者にご理解ご協力を得ながら各種大会等の運営を行ってまいりました。

協会理事会及び事務局内では、2019年以降も夏季対策を講じる必要性を感じ、方針見直しの議論を重ね、事前対策の必要性や各種マニュアル等の見直し等を検討してまいりました。

今般、今年度以降の当協会主催行事における「夏季における試合催行に向けた協会の方針（2019年以降版）」を策定しました。関係者は下記内容を遵守し、より安全な運営・行動に努めるようお願いいたします。また、各チームの日々の活動（合宿等も含む）においても、本資料記載事項に関して配慮し、活動するよう努めるようあわせてお願い致します。

尚、今後も必要に応じて随時追加見直しや異例の措置・判断等を取る場合があることをご理解下さい。

### 【協会方針概要（リーグ戦関連の例）】

主にチーム側	当日対応	<ul style="list-style-type: none"><li>■延期判断：原則、試合直前の WBGT 値が 31℃以上で延期</li><li>■WBTO：2分間。7-9月の全試合で各クォーター原則1回取得（7分経過後を標準とする）</li><li>○試合に臨む選手・スタッフをより多く確保するよう努める（選手は最低でも13名以上を確保）</li><li>●暑さ対策備品の準備、選手・スタッフの健康管理に努める</li><li>●女子の帽子・バンダナ類の着用を積極的に努める 等</li></ul>
主に運営側	運営体制強化	<ul style="list-style-type: none"><li>○MC（旧FD）・GD（旧会責）の機能強化</li><li>●SGとの更なる連携</li></ul>
	グラウンド確保	<ul style="list-style-type: none"><li>○新規グラウンドの開拓、早朝・夜間のグラウンドの確保</li></ul>
	日程調整	<ul style="list-style-type: none"><li>■試合開始時間の調整、日程見直し（予備試合数の予測含む）</li></ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"><li>■試合会場の基本情報整理・備品類の充実</li><li>○大会形式の見直し（継続検討）</li><li>○大会途中終了時の順位決定方法の事前確定</li></ul>

※■：2018年暫定版の見直し項目、○：2019年より新規項目、●：前年同様項目

※ただし、北海道・東北地区は影響度が低いことから適宜準用して対応

## 【高温時の試合実施の判断について】 別途マニュアル参照

### ●判断基準

暑さ指数の前日発表予測値又は当日の予測値と、当日の実績値が乖離するケースが多いため、試合当日の実績値を元に判断することを原則とする。

各会場に派遣されたマッチコミッショナーは試合開始時において、環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>（以下、熱中症予防情報サイト）を確認し、試合会場に最も近い場所の暑さ指数の最新実績値が WBGT 31℃以上を示す場合は、試合を延期する。なお、緊急対応として、別途暑さ指数を実測した場合や、急激な温度上昇や湿度・風・日照の状況変化があった場合等、マッチコミッショナーは、雷雨等と同様に試合の延期判断できるものとする。

ただし、運営上、前日判断する場合は、原則 WBGT33℃以上を基準に、マッチコミッショナー、ゲームディレクターまたは事務局が延期判断できるものとする。

## 【ウォーターブレイクタイムアウトの留意点】 別途マニュアル参照

ウォーターブレイクタイムアウトに関しては、2分間とする。7-9月の試合においては原則全試合で実施する。また、試合時間の変更に伴い、各クォーター1回までの取得を原則とする。

また、コーチ・チームスタッフ・控え選手がフィールド内に入り給水を補助することも可能だが、フィールド内の選手がフィールドを離れ、テント等を活用することも可能とする。

## 【事前の準備と心がけ】

●チームとして、熱中症対策の一環として下記の項目を実施してください。

- ・チームの責任者は前日までに試合当日のベンチ入りメンバーに関して十分な人数が確保（最低でも選手13名以上）できているかを必ず確認する。試合当日には選手及びスタッフの体調確認する事を義務とし（オフィシャル業務や大会スタッフとして派遣されている時も同様）、テントや氷などチームの備品準備やその他の予防措置に関しても必ず確認すること。
- ・チームの責任者は試合当日の集合時等に選手及びスタッフの体温確認を行い、熱中症のクーリングの基準である38度以上の選手及びスタッフはベンチ登録をしないようにする。
- ・エンドライン・サイドライン付近に、両チーム・審判員・ボールパーソンが飲むことが可能な水ボトルを配置する。尚、水ボトルの準備は試合チームが行うものとする。
- ・女子の試合に関しては、試合チームは色を統一した白または淡色系のバンダナ等、手ぬぐい及びタオル類の着用を推奨する。

●事務局及び連盟として、熱中症対策の一環として下記の項目を実施してください。

- ・遠方地も含めた新規グラウンドの確保や、早朝・夜間などの使用時間の拡大などをチーム側も協力しながら検討する。(照明基準として JIS 照度基準あり：500ルクス以上推奨)
- ・試合日程で7～9月に開催する試合に関しては、各地区の事務局判断で試合日程及び試合開始時間の調整等を検討する。(ex.7/20-8/20の12:00-14:00の時間帯に影響する試合開始を極力避ける、開会式の時間帯や式の簡略化を実施)
- ・試合会場で対応可能な暑さ対策情報を可能な範囲で整理し関係者共有しておく(ex.日陰・休憩場所、救護スペース、救急病院、テント・氷等。可能なら施設管理者等へ充実化を働きかける)。
- ・オフィシャル席並びに、両ベンチエリア後方でチーム持参のテント(テント用の重り付)の設置を可能とし、また充電式扇風機等の設置も推奨する(ただし、試合に悪影響を与えるような機材の設置は不可)。
- ・試合前後や試合中にチーム関係者・審判員・運営スタッフが待機できる控室を可能な限り確保する(控室がない場合はグラウンドサイドにテントを設置する等して日陰を確保)。
- ・チームの応援や観戦者にも考慮し、熱中症予防のポスターの掲示や会場アナウンスを行い、飲料を購入できる場所を告知する。
- ・マッチコミッショナーはチームの出場可能な選手が極端に少なくなった場合(目安12名以下)、安全及び円滑な運営に配慮し、チーム側に試合継続の意思を確認する。

●審判員として、熱中症対策の一環として下記の項目を実施してください。

- ・ウォーターブレイクタイムアウトでは、審判員も水分補給を積極的に行うようにする。
- ・審判員の体調不良等の緊急時、CBO及びテーブルオフィシャルとのローテーションや、会場にいる他の審判員との交代について、通常は認められない場合または予定していない場合においても、それらを柔軟に認め対応する。
- ・平日に運動をする機会の少ない社会人審判員、特に常時空調の効いた室内で勤務している方は、熱中症のリスクが一番高いとも言える為、試合当日は早目に行動を開始し、外気温に身体を慣らす時間を確保する。
- ・派遣前日に止むを得ない事情により、残業による睡眠不足や会食による飲酒があった場合は、通常より熱中症のリスクが高まるため、より一層注意する。

## 【その他留意事項】

延期試合の増大等により、大会途中で当初想定の数試合数を消化できず、順位決定する必要が生じる場合も、事務局・連盟(及び理事会)で適宜判断する場合がありますが、チームはその判断・決定に従うようにしてください。

以 上